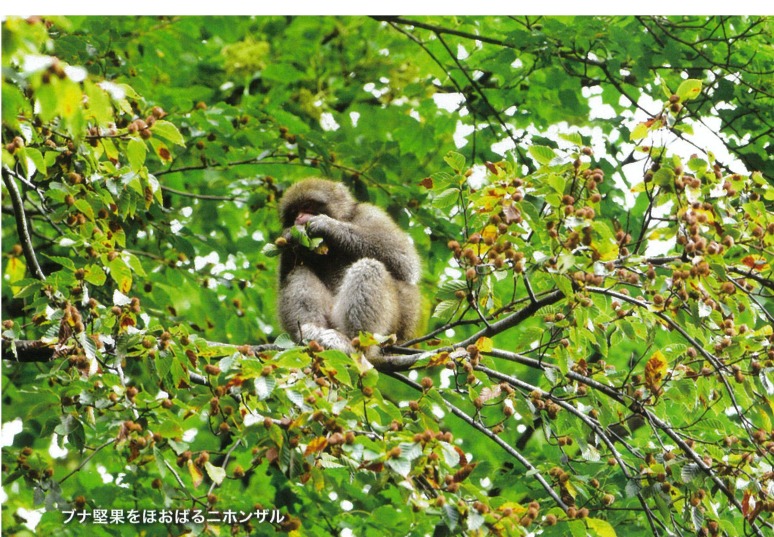
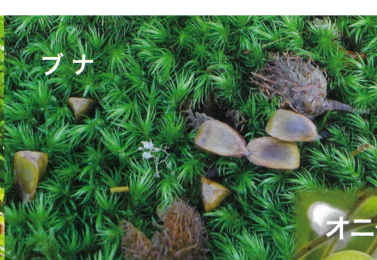




ブナ堅果をほおばるニホンザル



ブナ



オニグルミ



ミズナラ



コナラ

堅果類5樹種



埋土されたコナラ堅果と埋めた主？



ツキノワグマの親子出沒は堅果次第



緑の百年物語
森林セミナー2025

委員会設立
25周年記念講演

[講演者コメント]

堅果（けんか; Nut）はドングリに代表される硬い殻をもった木の実の総称です。硬い殻をもつ適応的な意味は哺乳類、鳥類さらには昆虫という捕食者である動物から大切な種子を防御するためです。さらに堅果をつける樹木は、その防御を補完するように豊作と凶作を織り交ぜた結実習性のマस्टینگをする樹種でもあります。近年、新潟県でもツキノワグマの人里への出沒が社会問題となっていますが、その原因のひとつが堅果類の豊凶であることはよく知られています。

ところが、種子の大切な役割である散布に注目すると堅果をつける樹木は捕食者である動物に種子散布を頼っています。ドングリは野ネズミによって遠くまで運ばれることで分布域を拡大しています。種子散布では厄介な動物たちが大切なパートナーに変身しているのです。堅果をつける樹種と、私たちヒトを含む、動物とのよくできた不思議な関係に興味津々（森々）です。

開催日 2025年6月20日(金)

時 間 15:00～16:20(定時総会終了後)

会場 新潟県自治会館 講堂

新潟県中央区新光町4-1 TEL.025-284-4100

入場無料

対象 にいがた緑の百年物語県民運動および森づくりに関心のある方

定員 100名

先着順。当委員会の正会員以外で参加を御希望の方は、6月13日(金)迄に主催者へ御連絡願います。



講演者

みぐち ひでお

箕口 秀夫 氏

(新潟大学名誉教授 博士(学術))

長野県出身、専門は森林学および生態学。1984年 新潟大学大学院農学研究科林学専攻修士課程を修了、新潟県庁に入庁。主に林業試験場(現:森林研究所)で豪多雪地帯の森林管理技術について研究、普及。1996年 新潟県退職、新潟大学入職(農学部附属演習林助手)。1999年 新潟大学農学部生産環境科学科 助教授。2008年 新潟大学自然科学系 教授。試験場での研究に加え、生物多様性を意識した野生動物と共存できる地域のあるべき生態系の復元や森創り、林業について教育研究、また朱鷺自然再生学研究所センター長や副学長(学生支援・就職支援担当)を歴任。2024年 定年退職。引き続き、森林・林業をめぐる課題に地域の人達といっしょに取り組む。



ナットくする
”木の实“のお話し
「堅果と動物のよくできた関係」